

谷間のゆり

2023年 4月 No.5
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
関西教区 女性部

巻頭言

野口友代先生（大津キリスト教会）

イースターおめでとうございます。
春の季節がやってきました。実は私は春になると毎年、不思議な小さな幸せを体験しています。私がイエス様に出会ったのは春でした。その頃教会に植えられていた沈丁花の香りを何十年たっても不思議に体が覚えていて、そして今でも沈丁花の香りが漂ってくると無条件に救われた時の幸福感が沸き起こってくるのです。小さな・けれども私には宝物のような体験です。私にとって春は神様が下さった喜びの季節となりました。

けれども私たちの人生には喜びだけでなく、苦しみもまた多くあります。長いコロナ禍もそのひとつでしょう。世界中で共有している苦しみと言えます。仕事や学業などに影響が出て「こんなはずではなかったのに」という嘆きの声も、ちまたで多く聞きました。

昨年の関西教区の女性集会では「ふんばれ！クリスチャン女性」というテーマで講師の三箇豊実先生からメッセージをいただきました。苦しみの中「ふんばれる」力、逆境の中でも倒れずに立ち続ける

力。「ふんばる」という言葉は前進したり打ち破ったりするパワフルなイメージとは違って、もっと地味で耐えるイメージを持っています。向かい風に倒れないように、しっかり足をふんばって前進に力を入れて歯を食いしばって、とてもパワーを使います。でも外から見ると一歩も進んでいない。結果だけ見ると「こんなに頑張ったの

に何も変わらないし進んでいない」という現実かもしれないかもしれません。私たちが心折れそうになる時というのは、がんばってもがんばっても何も変わらない時ではないのでしょうか。けれどもふんばらなければ、私たちは倒れてしまい、次に進むことができません。進んでいなくても倒れないことに意義があります。神様どうしてこんな逆境か？と思う日々には、実は「ふんばり力」が養われていて、今まで目覚めていなかった私たちの潜在力が立ち上がってくる人が多いのかもしれない。

コロナ禍で教会はこれまでのようにできなくなったことの代わりに別の方法を模索したり、そのためのスキルを習得したり、なんとか宣教のために私たちは進もうとしています。長い苦しみの中で知らず知らずに養われた忍耐力、強い手足、くじけない心、あきらめない心、考える力、何よりも祈る力と強い信仰は、これから神様が始めようとされていることに必要な備えとなったのではないのでしょうか。「ふんばる」時にこそ、私たちは実は代えがたい宝をたくさんもらっているようにも思います。

イースターを迎え、主の復活の喜びが世界中に溢れる季節です。長い冬が終わり草木が芽吹き美しく花開く時が必ず来るように、冬を耐えたものたちが見る春の訪れの光景はどれほど素晴らしいものではないのでしょうか。私たちはよく耐えて、主が咲かせてくださる美しい花と一緒に見る者たちとなりましょう。皆様にイースターの祝福が満ち溢れますように心よりお祈りいたします。



ふんばれ！クリスチャン女性 2022年 三箇豊実先生を迎えて

2022年度10月22日15時より、御影神愛キリスト教会において「ふんばれ！クリスチャン女性」(part1)の集会を持つことができました。福島・郡山より三箇豊実先生を迎えて会場には79名の方々、またYoutube視聴を含めたくさんの姉妹たちと心を合わせ祈る時となりました。

証し

大田愛姉 (阪神チャペルセンター)

私は、クリスチャンホームで育ちました。学生の頃から礼拝の奏楽や、こども集会等の奉仕をさせていただき、教区の中高生キャンプにも何度も参加していました。ある年のキャンプで講師だった三箇豊実先生に初めて出会い、その時のお子さんの学校での証が、当時学生だった私にとってとても印象深く、励まされ力づけられたことを覚えていました。

クリスチャン生活を続けて社会人となり、神様の導きにより結婚、2児の母となった私は仕事と子育てを両立しながら慌ただしい日々を過ごしていました。仕事や家事と子育てをしながら聖書をゆっくり読む時間もあまりなく、職場の人間関係でも悩み、定時で仕事を済ませ出来るだけ早く子供を保育園に迎えに行きたい。一緒にいる時間を大切にしたいのになかなか出来ないもどかしさに自分を責める時もありました。そんな中、三箇先生が講師の婦人集会に参加させていただくことになり、10年以上ぶりにお会いする事が出来ました。苦難が襲ってきてもクリスチャンとしてふんばって圧倒的勝利を得るためには、聖霊に満たされ聖書を学び、自分自身を知ること。人と比べ、周囲を気にして自分自身が何事にもストップかけていないか。まず第一に神様はどうおっしゃっているかを考えることの大切さに気付かされました。主にあって自分をよく知る事、罪に気づかされたら悔い改め新しくされる事。日々現実と信仰が一つになることで笑ったり泣いたりしながらも怖れないで力強く前進していけると思いました。

ローマ8：35-39節の中に「だれがキリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。」「どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。」とあります。どんなことがあっても神様が味方でいてくださりすべてを益としてくださる事を改めて思い出しました。祈りの時間では自分の心が開かれ、罪と向き合い神様がいつも味方でいて愛を注いで



三箇豊実先生と2022年度スタッフ

くださっていることを感じて涙が止まりませんでした。どんな困難からも必ず圧倒的勝利を下さる主に期待することで成長し前進していけることを教えられ心から感謝しました。仕事や子育ての中で主から示されたミッション=自分ができることに前向きに取り組めるようになりました。神様にふんばってやるべきことを教えられたら希望をもって前進あるのみ。今回の集会で励まされ、神様からたくさんの恵を受けられたことを心から感謝致します。

証し

長谷直美姉 (大津キリスト教会)

関西教区 秋の女性集会2022に参加させて頂きました。コロナ禍で、オンラインと会場に集まったの集会でしたが、『ふんばれ！クリスチャン女性』というタイトルと、三箇豊実先生のメッセージに期待し、会場に行って参加することにしました。

メッセージのタイトルは、「圧倒的な勝利はあなたのものだから」ローマ8:35~39からお話ししてくださいました。圧倒的な勝利者になるためのポイントや証しをして下さいました。その中で私が受け取ったことは、まず神様が私の味方であること(ローマ8:31)キリストの愛から引き離すことはできないことです。二つ目は、自分自身が私の敵。自分の中にある間違った考えによって無理だと考えている。ふんばるか止めるかを決めるのはわたし自身であることです。三つ目は、聖霊に満たされること聖書を学ぶこと。日常と聖書はセッ

トであること。そして圧倒的な勝利と困難やピンチはセットであることです。

私はキリスト教幼稚園の預かり保育の職員として働いています。地域的にも子供が少なく、園児の人数も年々減少しています。ずっとずっと幼稚園の祝福のために祈り続けていますが、状況は悪くなるばかりでした。幼稚園の存続も心配されています。今回のお話を聞いて、神様はこの幼稚園にも何かご計画を持って導いておられると思いました。園長を除き、職員の中でクリスチャンは私だけです。この幼稚園のためにとりなす者として私を置き、計画を進めておられると思います。困難やピンチはありますが、神様はわたしの味方であることを忘れず、祈り続けたいと思います。そして神様の圧倒的な勝利を見たいと思います。

「12年間の感謝」



郡山キリスト教会 三箇豊実先生

「もしママたちが他の場所の教会に（避難して）行くならそれでもいいよ。でも僕といーちゃん（高校1の姉）はここ（郡山）に残る。」「だって、今のために神様が僕たちをここで生まれさせたんだと思うから。」当時小学6年だった息子が言った。

ちょうど、福島第一原発の1号機から4号機までの爆発があった日の翌日、夫がこっそり私に「もしかしたら、教会の人々に声をかけて動ける人だけでも一緒に、新潟かどこかへ一時的でも避難した方がいいかも」と言った夜だった。全て置いて？移動できない人は？と頭の中を答えの出ない問いがグルグルと回っていたそんな夜。息子の一言で私の心はスッキリと決まった。「福島に残る。政府から退去命令が出ない限り残る。」

大型の余震を繰り返すので、すぐに飛び出せるように靴もカバンも枕元に置いてリビングで布団を引き詰めて家族全員で寝た。そして2週間後の3月20日からは、教会挙げて市内の被災者と、津波で破壊され、原発の爆発で避難してくる人々への支援活動がスタート。

目の前で家族を流された人々。家も畑も何も外見は問題ないのに街から出された人々。当面の行動を決めようと意見が衝突し離婚していく夫婦たち。各地から届く支援物資をやったことのないルールを毎日更新しながらの配布。ボランティアの人々の活動や問題を聞き取り配置していく未知の作業。1か月が1年分の活動のように体も心も疲れていた。

牧師たちを含め誰も経験した事の無い「被災者支援」は、手探りで困難の中を進んだ。当初、行政の姿勢は「一般人からの物資は受取らない」

「公にボランティアを募集していない」というもの。関西大震災を教訓にしているようだったが、実際の被災した方々のニーズは恐ろしいほど、果てしなくあった。

私たちの教会から車で5分ほどの所に福島県最大の避難所「ビックパレットふくしま」というコンベンションセンターがある。津波と原発爆発により避難して来られた方々が二千五百人ほど、ダンボールを敷き詰めて身体を寄せ合っておられた。この場所で私たちがNPOとして「キッズコーナー」「生活スターターセット配布」をスタート。これこそが今日まで続く支援活動の入り口となる。海外や国内の支援団体や支援者の方々の理解を少しずつ得て、避難所への物資の配布から始まり、絆カフェやイベントの開催、福島県内外の仮設住宅や借り上げ住宅への訪問、生活支援、カウンセリング、そして「一緒にいる」こと。

福島という名前が各地で「放射能」と並べられ、福島からの避難者も作物も各地で叩かれるたび、家族でその報道を見ながら「神様は福島にいる。私たちを愛してくださっている！」と涙して祈った。こんなに傷んでいる福島・東北だからこそ神様の素晴らしい御業が起こるんだ！と教会でも家族で話し合っている。この痛みも信仰と勇敢な決意へとつながり、困難も天地の偉大な主の力と愛を体験するチャンスへと変わる。

“神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。”

ローマ人への手紙 8章 28節

聖書新改訳 2017©2017新日本聖書刊行会



「更年期と女性」について
輝いていたいあなたに
イチオシの一冊

村上恵子先生(七條基督教会)

元気でバリバリと仕事、家事、教会奉仕をしているクリスチャン女性。更年期を迎える頃から、からだと精神の不調が出て来るのを体験しておられることでしょう。最近なんだかイライラする、落ち込む、頭痛が、整理が不順で・・・礼拝に行くのも気が進まない。そんな自分を叱咤激励して教会へ。「あなたも?」「ええ、私も。実はね・・・」そんな会話を教会の姉妹たちとしているのではないのでしょうか。

「不信仰な自分」と決めつけるのではなく、変化しつつあるからだの声に耳を傾けてみましょう。

女性は更年期以降、様々な健康障害が起こりやすくなります。ところが、必ずしも適切な医療を受けているわけではありません。悩み、苦痛を抱えながら暮らしているのが実情でしょう。まるでイエス様の衣のすそにでも触れようとしている「長血の女」のようです。ここで紹介したいのは無料の小冊子

「輝く中高年女性になるために」タイトルからしてクリスチャン女性向け。サブタイトルは「一婦人科の病気をよく知ろうー」大阪市で町の保健室を開設している大阪信愛女学院教育研究センターが作成しました。長年、更年期以降に起こる健康障害や、その予防に取り組んできた婦人科医が執筆し、女性の心身についての多方面にわたる知識とアドバイスが満載です。

最初のページにはこのように記されています。

「輝く中高年女性になるためにまず大切なことは、



「輝く中高年女性になるために」

女性自身が身体の変化や健康障害をよく理解、認知、受容し、うまく付き合っていくことです。このことが自己ケア能力、健康や生活の質の向上につながっていきます。少々の健康障害を持っていてもそれをしっかり受け止め、前向きに人生を楽しんでいる人が輝いて見えるのだと思います。」扱われているのは月経、子宮筋腫、冷え性、頭痛、更年期障害、肥満、ストレス、尿漏れ、自立神経失調、等々。その症状や治療、付き合い方まで丁寧にアドバイスされています。

あれもこれもあてはまるのにびつくりしながら一気に読んでしまいました。「相談してみようかな」と思うあなたのために病院の婦人科だけではなく、保健所、市町村の女性センターなども開かれています。神様が与えて下さったこの心とからだ。女性という性。今までは更年期だからと我慢し続けていたかも知れませんが、メンテナンスしてうまく付き合うことが出来れば、クリスチャン女性はもっと輝いて生きていけそうです。

「愛する者よ。あなたのためしいが幸いを得ているように、あなたがすべての点で幸いを得、また健康であるように祈ります。

第3ヨハネの手紙

32節

秋の集会

共に集まって祈ろう！

2023年10月22日(日)

15:00~

ふんばれ！クリスチャン女性

Part II

場所：平野キリスト福音教会

開拓伝道のスペシャリスト



西宮アガペー教会

Message：趙善江先生